

推進テーマ

幼保小相互の連携を深め、
子どものよりよい育ちをつくるためのかかわりの在り方を探る
～ふれ合う、知り合う、深め合う～

1

帷子地区
スカイハイツ幼稚園
天王町保育園
帷子小学校

推進テーマ設定の理由

幼保小相互の職員が知り合うことで、目指す子どもの姿を共有し、連携することができる。

その中で、どのような交流がより、子どもの育ちに有効か、かかわりの在り方を実践する。

推進内容

- ・ 幼保小それぞれの子どもの様子、取組を理解するとともに目指す子どもの姿の共有を図る。
- ・ 職員間交流を深め、子どもを中心としたよりよい育ちの場、手立てを研究する。
- ・ 交流活動の在り方について、双方向で意見を交わし、より効果的な内容を研究、実践していく。

今年度の重点課題 ～今年度力を入れたこと～

持続可能な幼保小交流

今年度は、次の3点を意識した交流を行った。

- ①ゆとりある交流計画・交流内容
- ②学校と園が協力して行う活動
- ③各学年の学習活動を工夫して行う交流活動

次年度も行いやすいことを大切にし、準備に負担の無い計画や交流しやすくなる活動、小学校の学習活動を充実させる活動などを交流に取り入れた。

4月

幼保の先生によるスタートカリキュラム



1年生のスタートカリキュラムの一環として、スカイハイツ幼稚園・天王町保育園の先生方による読み聞かせや手遊び。

4月

小学校職員による保育園懇談会での講話
「入学に向けて大切にしたいこと」



帷子小学校の職員が天王町保育園の懇談会において、「入学に向けて大切にしたいこと」というテーマで話をした。保護者の入学への不安を和らげることができた。

7月

小学校職員の保育体験・保育参観



帷子小学校の職員が、スカイハイツ幼稚園・天王町保育園を訪問し、保育体験や保育参観を行った。幼稚園・保育園の先生の具体的でわかりやすい言葉かけが印象的だった。

8月

職員研修会「保育の中で大切にしていること」
～子どもたち自身で考える、話し合う～ 天王町保育園

話題①当番活動（人数報告）場面の「言葉」を考える

話題②リレーのチーム分け、順番の決め方を相談

僕たち私たち混乱中・・・4/2

報告と確認って
何が違うの？
どういう意味？

あいさつって??
令和7年 4月 2日 (水) ゆり組
どれが挨拶なの？と聞くと
子供以上に先生の挨拶の方が
多いと気づいた。

失礼しますって
何？

報告は言うこと!?

確認は聴くこと!?

前中り組の別室にいる
当番を知らせる
自分たちが考えたやりかたや言葉は
みんな、と大抵、子供が考えた言葉。

決め方いろいろ 5/21

話し合い 譲り合い
見守りたい

話し合いの結果...
令和7年 5月 21日 (水) ゆり組

今日は誰と
走るのかな？

〇〇さんと
走りたい♡

誰と走れば自分が
先に走れるか
考えてるんだなあ

何でいつも
ジャンケン??

他の決め方って
何があるんだろう？

好きな番号なら
走れるかも！

いつになったら
全員で走れるんだろ？

「ぼんやがーい
ひとだれ??」

「ぼんやがーい
ひとだれ??」

今日のメンバー:
予備に決定。
自分で決めたので、リレー
苦手な友達も今日は1人
走りました。

30分
15分

ゆり組は
遅くとも
お楽しみ!!

5歳児の担任が大切にしてきた「子どもの声に耳を傾ける」保育、子どもたち自身が考え、話し合い進めていく中で主体的に取り組んできたことについて話題提供。
※資料として、保護者に日々の保育内容を共有する「ドキュメンテーション記録」を使用。

8月

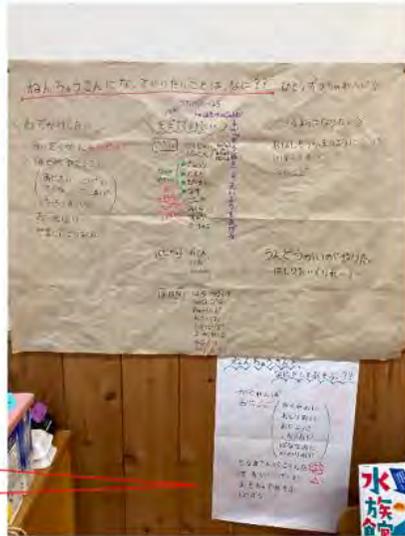
職員研修会「保育の中で大切にしていること」
～子どもたち自身で考える、話し合う～ スカイハイツ幼稚園

話題①話し合い活動

★第1回サークルタイム(4月)★
「年長さんになって、
やりたいことはなに??
～ひとつずつチャレンジ!!～」

みんなの前で、色々なことを発表!
保育者が、子ども達が考えたことを文字にして
書き出し、目に付く場所に貼り出します

年中さんとの異年齢交流で何をして遊び
たいかもみんなで話し合いました!



話題②遊びの中から文字の習得



■ きっかけ ひらがなワークって、つまらない!!

文字や数字との出会い方を模索し、遊びから興味関心を持つことを心掛ける保育にしていった
「ひらがなって、難しい・・・でも遊びの中にもあってちょっと気になる!」

職員研修会「保育の中で大切にしていること」 ～子どもたち自身で考える、話し合う～



5歳児の担任が大切にしてきた「子どもの声に耳を傾ける」保育、子どもたち自身が考え、話し合い進めていく中で主体的に取り組んできたことについて共有。子どもの思いや願いを引き出し大切にすることは、小学校の授業づくりとも共通していた。

グループワークでの話題

- ・小学校では子どもたちの「話し合い」はどのように進めていっているのか
- ・限られた時間の中で子どもたちで決めていくことは難しいと思うが、行事をするにあたってどうやってゴールに持っていくのか？またはどこをゴールとしますか？ など



園と学校で共通の本を購入



共通で購入した本



子どもたちから「この本読んだことある!」などの声上がり、共通の本によって小学校の図書館を身近に感じてもらうことができた。

11月～2月

子ども同士の交流（小学校低学年）



遊びを通じた交流



園と協力した栽培活動

一緒に遊ぶ交流をしたり、協力してチューリップの球根を植えたりすることで、園児の小学校入学への期待や登校への安心感を高めることができた。

11月～2月

子ども同士の交流（高学年）



保育体験



園児の小学校体験



体育の保健の学習から4年生が保育園で0歳児～3歳児と実際に交流を行ったり、次年度深いつながりになる5年生がミニ先生となり5歳児に授業を行ったりした。児童の思いやりの気持ちを育む貴重な体験になった。

小学校

<成果>

- ・園児たちにとっての持続可能な交流として、小学校の校庭をお散歩したり遊具遊びをしたりと年長児が気軽に小学校に来られたことがよかった。
- ・一緒に遊ぶ、球根を植える、小学生体験など、交流の機会が多くあること、早い時期からペアで活動したことにより、相手を思いやった発言が見られるようになった。
- ・今年度初めてチューリップの球根を植える活動を行い、「また小学校に行きたい。」「早く咲いてほしい。」など、小学校入学に対する期待が高まっている様子が見受けられた。小学校入学がより楽しみになるように「しょうがっこうはたのしいよの会」の準備に、1年生が意欲的に取り組んでいた。

<課題>

- ・今年度、ペア活動を取り入れたことで関わりが深くなり、思いやりの言葉など、大きな変容が見られた。複数の園との関わりになるが、顔と名前のわかる交流を大切にしていきたい。

保育園・幼稚園

<成果>

- 小学校の教員が7月に公開保育に参加した上で、8月の幼保の発表（話題提供）を聞く研修会に参加したことで、幼保の保育・教育の実践のなかで日頃大切にしていることや迷うことなどを率直に伝えることができた。
- 研修会を通して、それぞれの所属の職員が考えていることを迷いや悩みも含め共有する機会を持てたことで相互理解が深まった。乳幼児期と学童期の保育や教育で「共通すること」「つながっていくもの」も再確認できた。
- 小学校内に交流花壇を作ってもらったことで、人や時間の交流、共有を通じた活動にプラスして、小学校の中に「居場所」ができたように感じられ小学校への敷居がまた一段と低くなったと思う。
- 小学校の特定の学年と年長児とのピンポイントの交流ではなく、保育園の0歳児をはじめとする各年齢の園児と複数学年の児童が交流する機会を多様にもっていることで、より充実した「つながり」に育ってきている。

<課題>

- 職員が交流し、学び合うことやお互いの実践の現場を見合うことは、時間的にも厳しいと思うが、形だけの交流としないためにも、今後も職員同士が「学び合う場」「気づきを伝え合う場」を継続的につくっていくこと。